



夢・挑戦・感動を大切に教育

霞西中だより

第9号

令和3年12月1日発行 校長 堤 貴幸

〈学校教育目標〉
心身ともに健康で
自ら行動する生徒の育成

〈目指す生徒像〉
○夢を持ち自ら学ぶ生徒(自主)
○心豊かで思いやりのある生徒(敬愛)
○心身ともに健康な生徒(錬磨)

感動を呼んだ学年別合唱コンクール

社会全体の新型コロナウイルスの感染者数は減少してきてはいるものの、油断はできない状況下での合唱コンクール開催となりました。感染拡大防止のために、今年も昨年と同様に学年別開催で保護者への公開はせず、マスクをしながらの合唱としました。

今年度は2学期当初の9月の1ヶ月間が感染症対策として分散登校になってしまったために、例年より練習時間が少ない中での開催でしたが、どのクラスも練習の成果を發揮して素晴らしい歌声を響かせてくれました。また、かがやき学級は鍵盤ハーモニカ、トーンチャイム、リコーダーで「パプリカ」の演奏を頑張りました。その中で、特に3年生の合唱は、迫力あるものでした。ただ残念なのは、その3年生の歌声を1・2年生に聴かせられなかったことです。例年ですと、全校生徒が揃って合唱コンクールを行い、1・2年生は3年生の圧倒される合唱を聴いて、「自分たちも3年生になったら、あのような歌を歌えるようになりたい」と憧れて目標を持ち、これが毎年繰り返されることによって学校の「良き伝統」が引き継がれていくのです。

しかし、新型コロナウイルスの影響で学年別の開催は昨年度に引き続き2年目となってしまう、このままであると「良き伝統」が引き継がれなくなってしまうこととなります。そこで、今年度は3年生の最優秀賞になった3年2組の生徒達が、明日の1年生学年朝会、明後日の2年生学年朝会で歌声を披露する機会を設けることにしました。1・2年生の皆さんには、3年生の歌声を生で聴いて、「良き伝統の継承者」になってもらいたいと願っています。

合唱コンクール結果

【最優秀賞】

3-2 2-3 1-1

【ハーモニー賞】

かがやき学級

【指揮者賞】

3年 ○○○○

2年 ○○○○

1年 ○○○○

【伴奏者賞】

3年 ○○○○

2年 ○○○○

1年 ○○○○

「全国『防災小説』交流会」に参加 ～Hero is myself 〈想像力は防災力に〉～

これまでにもお知らせしてきました通りに、本校では防災教育を中心とした安全教育の指導法の研究を、地震学者でいらっしゃる慶應義塾大学准教授の大木聖子先生の指導の下に行い、今年で3年目となりました。

文部科学省から出されている資料によると、中学校段階における防災教育の目標は、「日常の備えや的確な判断のもと主体的に行動するとともに、地域の防災活動や災害時の助け合いの大切さを理解し、すすんで活動できる生徒の育成」とされています。

防災教育の基本は、「自分の命と安全は自分で守る」という「自助」の能力を育成することであり、これは主に小学校で学習する内容です。中学校では小学校での学習内容をさらに発展させ、「地域の防災や災害時の助け合いの重要性を理解し、主体的に活動に参加する」という「地域の一員」として「共助」の精神を培うことが重要となります。

本校では、小学校での「地震の際に自分の安全を守る3つの基本動作（「さるのポーズ」「だんごむしのポーズ」「あらいぐまのポーズ）」や校内の危険箇所の把握などの学習を引き継ぎ、中学校3年間を通して生徒の発達段階に応じた学習を以下の通りに学年ごとに行っています。

①1年生の防災学習テーマ「家庭内防災」【自助】

災害に備えて事前に家庭でやっておかなければならないことにはどのようなことがあるかを確認し、それについて具体的に考えさせて自助の能力を育成する学習。そして、生徒達に授業で学んだことを家庭に持ち帰らせ、家庭内で防災のリーダー的役割を果たせられるようにすることがねらいである。

②かがやき学級の防災学習テーマ「防災ポーチ作り」【自助】

地震はいつ起きるか分からない状況では、家に防災用品を備えていても外出中に発災したら困ってしまう。そこで、外出時に最低限の備えを持ち歩くためのポーチを作るには、中にどのような物を入れればよいかを考える学習。

③2年生の防災学習テーマ「避難所運営4コマ漫画」【共助】

災害時の避難所運営を疑似体験する演習型の防災教育。避難所で「困った問題」が発生している1～3コマの漫画に続く、空欄になっている4コマ目の避難所運営者のセリフを考えるという学習。避難所運営側として避難者に伝えるセリフを考える中で、災害時の場面が自分にも起こり得ることとしてリアルにイメージすることをねらいとしている。

④3年生の防災学習テーマ「防災小説」【自助&共助】

まだ起きていない震災について自分の体験談のように想像して綴る学習。具体的には少し先の特定の日時と天気を指定し、その日に地震が発生したと想定して、その時自分は何をしているか、家族はどこで何をしているか、町の様子はどうかなどを、自分が主人公の小説として原稿用紙2～3枚に綴る。想像力を働かせ自由に書いてよいが、「小説は必ず希望を持って終えること」というルールを守る。

《裏面に続く》

《 表面からの続き 》

本校では以上のように各学年ごとに学習テーマを設定し、1年生で「自助」、2年生で「共助」について学習し、3年生で中学校の防災教育の集大成として「防災小説」の学習を行っています。

「防災小説」の学習後の生徒の感想文を見てみると、「防災小説を書く前は、災害のことについてあまり考えたことがなかった。小説を書くために様々な災害のことを調べて、何が起るのかもよく分かった。災害時に自分がどうしたら良いのかもよく考えることができた。」「今回防災小説を書いてみて、自分には関係がないと思っていた地震が急に身近なものになったように感じた。大切な人の死や大切な物を失うことなど、考えたくもないことと向き合うことで何気ない日々のありがたみや周りの人達の存在の大きさについて気付かされた。防災小説を書かずに迎える大地震と、防災小説を書いてから迎える大地震とでは自分が起こす行動は大きく異なると思う。」など、生徒達は、それまでは震災をどこか「他人事」のように捉えていましたが、「防災小説」の学習を行ったことにより「自分事」として捉えられるようになり、防災への知識と意識を大きく高め、災害への対応能力を身に付けられたことが分かります。

このように、「防災小説」は防災教育を行う上で大変効果的な教材です。この教材の開発者でいらしゃる大木准教授の指導の下、現在、本校を含め全国の中学校が「防災小説」の学習に取り組んでいます。そこで、11月17日に、北海道釧路市立音別中学校、秋田県能代市立能代東中学校、本校、高知県土佐清水市立清水中学校、愛媛県愛南町立御荘中学校の5校をオンラインで結び、御荘中学校をホスト校として「第1回全国『防災小説』交流会」を開催し、各校代表生徒1名が「防災小説」を発表しました。この交流会のキャッチフレーズである「Hero is myself ～想像力は防災力～」(この素敵なキャッチフレーズは、御荘中学校の生徒が考案してくれました。)の通りに、どの学校の生徒も「想像力」を膨らませて防災について真剣に考えて綴った小説を披露しました。5名の生徒の小説はどれも聞き応えがあり、素晴らしい小説でした。

なお、この交流会には、NHK総合テレビ、日本テレビ、フジテレビ、東京新聞が取材に入り、すでに日本テレビは放映済み、東京新聞はネット上で記事が掲載されています。(フジテレビは、テレビ局の都合により放映されないことになりました。)

NHK総合テレビの放映は、12月12日(日) 10:05～10:50「防災・復興 明日を守るナビ」です。

本校は3年2組の〇〇〇〇さんが代表として発表をしました。小説の内容は以下の通りです。

「助け合いの心」 川越市立霞ヶ関西中学校 〇〇〇〇

今日は9月27日、やっとコロナ対策の分散登校も終わり、ずっと会いたかった友達と楽しく話しながら下校しているその時、友達が言った。「なんか揺れてない？」 そう言われてからは一瞬の出来事だった。

今までに体験したことのないほどの揺れが体を伝わり、私はとっさに地面にしゃがみ、身をかがめた。友達の叫び声、建物の崩れる音、物が落ちる音、色んな音が耳に飛び込んできた。私はパニックで頭が真っ白になり、自然と涙が出てきてしまった。10秒ほど強い揺れが続き、一度収まった。私と友達の周りには幸い高い建物はなく、お互い大きなケガをすることはなかった。そして、顔を上げ町を見渡した。想像以上だった。普段見ている景色とは変わり果てた町の姿に、私は呆然とした。今まで地震の映像はニュースや学校の授業で見たことはあったけれど、自分の町で実際に起こると、こんなにも悲しい気持ちになるんだなと思った。

そんなことを考えていると、「早く避難しよう。」と隣から聞こえた。その友達の声に私はハッとした。そうだ、今はこんなことを考えている場合じゃないんだ。今まで防災訓練で学んだことを思い出し、私達はすぐに避難所の学校に向かうことにした。しかし、それは簡単なことではなかった。変わってしまった町を歩くのは、いつもの登下校の何倍も時間がかかった。道路が冠水している所もあった。「そこ、深いから気を付けてね。」前に居たおじさんがそう声をかけてくれた。「あそこは崩れやすいから、こっち通りな」と近くに居たお姉さんが教えてくれた。色んな人に助けられてパニックだった心も少し落ち着き、無事に避難所に着くことができた。

避難所に着き、想像以上の人の量に驚いた。だけど、それ以上に驚いたことがあった。ケガ人を救うために来た救急隊の方々、物資を運んで来た市や県の人達、外国の方に対応する人、みんなに指示を出して避難所を運営する人、そこには同じ中学の友達も居た。避難してきたほとんどの人が自分にはできないことはないかを探して協力し合っていた。きっとみんな私のように突然の出来事で不安だし怖いのに助け合うその姿に私は感動した。私達もすぐに避難所の運営を手伝うことにした。

それから1週間、少しずつ町も復興が進み、家族とも連絡が取れて、避難所にもだんだんと笑顔が増えていった。もちろん、この地震で失ってしまったものもあった。だけど、そのこと以上にたくさん小さな幸せがあった。避難しようと言ってくれた友達、避難所に行く時に助けてくれた町の人、避難所でみんなをまとめてくれた人、物資を運んでくれた人、私を助けてくれたその全員の一人数でも欠けていたら、今の私はここにいなかったと思う。

12月(December)の行事予定

日	曜日	行事	部活動		下校
			朝	午後	
1	水	1年・かがやき学級防災教育/PTA家庭教育学級	×	×	15:35
2	木	1年学年朝会	○	○	16:30
3	金	2年学年朝会	○	×	15:45
4	土				
5	日				
6	月	3年三者面談1日目	×	×	16:15
7	火	3年三者面談2日目	○	○	16:30
8	水	3年三者面談3日目	○	○	16:30
9	木	3年三者面談4日目	○	○	16:30
10	金	3年三者面談5日目/2年修学旅行荷物トラック積込	○	○	16:30
11	土				
12	日	2年修学旅行1日目			
13	月	2年修学旅行2日目/6時間授業	×	×	16:15
14	火	2年修学旅行3日目	○	○	16:30
15	水	2年振替休業	○	○	16:30
16	木	学校評議員会議/生徒会専門委員会	○	○	16:30
17	金	生徒会中央委員会	○	×	16:30
18	土				
19	日				
20	月	6時間授業	×	×	15:45
21	火	生徒朝会/5時間授業	○	○	16:30
22	水	給食終了/4時間授業	○	○	16:00
23	木	3時間授業	○	○	15:00
24	金	終業式/3年通知書手交	×	×	10:35
25	土				
26	日				
27	月	3年通知書変更受付			
28	火				
29	水	閉庁日	×	×	
30	木	閉庁日	×	×	
31	金	閉庁日/大晦日	×	×	

保護者アンケートにご協力を

1学期に実施しました「教育活動に関する保護者アンケート」を2学期末を迎えるにあたり、2回目を実施いたします。用紙はすでに生徒に配布済みです。クラス名を書いて(差し支えなければ記名もお願いします。)、12月3日(金)までに担任に提出願います。学校改善の資料といたします。